

— 第123号 —

発行

最上総合支庁産業経済部
農業技術普及課

〒996-0002 新庄市金沢字大道上 2034

TEL(0233) 29-1322

FAX(0233) 22-2026

E-mail:ymogaminofu@pref.yamagata.jp

普及だより

力を合わせ、課題解決を進めます



春の農作業安全キャラバン出発式 (令和4年4月)



若手トマト研究会第1回研修会 (令和4年6月)



三村りんどう目揃会 (令和4年7月)



防霜対策研修会 (令和4年4月)

農業経営の持続的な発展を

経営企画主幹 高橋 かおる

明けましておめでとうございます。

昨年来、コロナ禍や気象災害の発生に加えて、ロシアによるウクライナ侵攻・急速な円安等の影響でエネルギー価格や資材価格の高騰等により、経営を取り巻く環境は厳しさを増しています。

そのような中、管内の農作物の生産は、水稲では作況指数「98」の「やや不良」となりましたが、品質は前年よりも高く、概算金も増額されました。また、野菜では、主要6品目の販売数量は概ね平年並みとなり、単価は全ての品目において前年より高値で推移したことから、販売金額は前年を上回る結果となりました。気象が不安定に経過する中、生産者の皆様のきめ細かな栽培管理の賜物です。品質と生産量の安定的な確保は農業経営の基本です。引き続きよろしく願いいたします。

経営の結果は数字に表れます。厳しい経営環境の時こそ、基本に立ち返り、数値でしっかり経営状況を把握し、経営改善を進めていきましょう。そして、地域の皆さんとお互いに声を掛け合い乗り切りましょう。

普及課では、関係機関とともに引続き支援してまいります。

新年を迎え気持ちも新たに、環境変化に柔軟に対応し、魅力ある産地づくりと活力ある地域づくりを進めましょう。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



普及活動トピックス

スマート農業を活用して「つや姫」の品質食味を高位平準化します

近年は気象の変動が大きく、作柄を安定して確保するためには、きめ細かな圃場管理が必要です。当課では、水稻の生育状況を圃場毎により詳細に把握する補完技術として、衛星画像を用いた穂肥診断や生育予測の利用方法等について、各種研修会や圃場巡回で紹介しながら普及を進めています。



タブレット端末を活用した操作説明

野菜の若手生産者組織の活動を支援します

管内では今後を担う野菜の若手生産者が増えており、主要品目ごとに若手生産者組織が結成されています。当課では、研修会等を開催し、市町村の枠を越えた広域的な交流の促進と、栽培技術や経営能力の向上を図っています。今後も引き続き若手組織の活動促進に向けた支援を行ってまいります。



若手なら研究会の現地研修会

トルコぎきょう産地の再生を推進します

最上地域では土壌病害の「立枯病」が蔓延し、その解決が最優先課題でしたが、3年間の対策により被害を地域全体で3分の1まで減らすことが出来ました。今年も一層の対策を進め、栽培管理の徹底と技術の向上を図りながら、さらなる生産性向上に向けた支援を行ってまいります。



トルコぎきょうの巡回指導

消費者に魅力的な農産物直売所づくりを応援します

新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの販売が定着し、最上地域の農産物直売所にも地域外からの消費者が訪れるようになってきました。当課では、直売所に訪れた消費者の購買意欲を高める売り場づくりの研修会やSNSを活用した情報発信研修会等を開催しながら、各直売所の販売活動を支援しています。



売り場づくり研修会

産地研究室だより



「夏播き越冬苗」の4月下旬の様子

にらの機械化一貫体系による省力栽培技術の開発

にらは収穫後の調製に労力がかかることから、調製能率とにらの形状について調査したところ、一本重が重いにらを生産することが調製能率を高めるために重要であることが明らかになりました。また、春どりを「パワフルグリーンベルト」、夏・秋どりを「エナジーグリーンベルト」とする組み合わせが最も収益性が高いことがわかりました。

さらに、最上地域で広まりつつある「夏播き越冬苗」を生産するための播種時期を明らかにしました。

次年度からは「夏播き越冬苗」の利点を最大限に引き出す栽培体系の構築を目指します。

自給飼料の生産を支援します

管内では、家畜（牛）の飼料として、牧草や飼料用とうもろこしの他、飼料用稲や飼料用米、飼料用子実とうもろこしの生産が行われています。当課では、近年の飼料高騰を踏まえ、牧草や飼料用とうもろこし等の生育調査や栽培管理等の指導を引き続き行いながら、自給飼料の安定生産を支援していきます。



飼料用とうもろこしの生育調査

最上地域のさくらんぼ振興に努めています

山形県を代表するくだもの「さくらんぼ」について、当課では産地研究室等と連携し、凍霜害対策や結実安定、果実の高品質化に向け、研修会や個別指導、さくらんぼ品評会、先進地視察研修等を実施しています。今後も生産者と連携し、最上地域のさくらんぼ振興に取り組んでいきます。



秋田県湯沢市での視察研修会

県では、将来の日本をけん引する農林業経営者を養成するため、「東北農林専門職大学（仮称）」の開学準備を進めています。農業・森林業の生産や経営、加工、販売等の知識と理論に裏付けられた技術を、講義だけでなく、県内外の先進経営体での長期実習など豊富な実習で学べる新しいタイプの大学です。県立農林大学校（新庄市）の敷地に校舎を新築中で、現在の高校二年生が第1期生となります。詳しくはQRコードからご覧ください。

「東北農林専門職大学（仮称）」
令和6年4月開学に向けて設置認可申請中！



<https://www.ynodai.ac.jp/university/>

最上地域農業士の紹介 《大蔵村》 本年の目標を聞きました



【指導農業士】

佐藤 繁栄 さん

トマト、水稲、たらの芽
農業法人での活動も併せて、
地域農業に貢献したい。



【指導農業士】

海藤 敏文 さん

水稲、トマト、菌床しいたけ
地域の遊休農地の再生に向
けて頑張っていきたい。



【青年農業士】

安彦 和樹 さん

野菜（きゅうり、たらの芽）
安定した収量確保に向けて
頑張っていきたい。



【青年農業士】

長瀬 剛 さん

トマト
最上管内で若い農業者が増
えるよう活動していきたい。

◎GAP（農業生産工程管理）に取り組みましょう

GAPの主な目的は、「食品安全」「環境保全」「労働安全」「人権保護」「農場経営管理」の5つの分野を柱とし、農産物生産の各工程で適切な時期に点検を行い、改善を図る取り組みです。作業の記録、作物保管時の管理、作業場の整理整頓、作業の安全性確保など、農業生産の各工程をしっかりと記録管理し、経営改善に役立てましょう。

◎農薬の適正使用を遵守し、安全な農作物を出荷しましょう！

◎特別栽培農産物認証申請を忘れずに行いましょう！

やまがた農業支援センターへの提出期限（第1期）は、2月15日から3月15日までです。「つや姫」栽培等、特別栽培農産物認証が必要な方は、忘れずに申請してください。なお、生産計画は、提出前に農業技術普及課での確認を受けてください。

おめでとうございます

今年度、最上地域で活躍されてきた多くの方々が受賞されました。

*大高根農場記念山形県農業賞・最上農業賞【特別部門】

◎三條 清美 氏 (大蔵村)

加工用トマトの露地栽培から雨よけハウスの導入による生食用トマトへの転換を図り、農協 園芸特産協議会会長としてハウス導入事業や共同選果場整備を進め、雨よけハウス栽培の普及拡大と大蔵村トマトの産地化、ブランド化に貢献されました。

また、大蔵村認定農業者の会会長、大蔵村農業委員会委員を長く務め、若手農業者の育成や農地利用効率化の推進等で地域農業をけん引するとともに、農事組合法人「五月晴れファーム」を設立し農地集積を進めるなど、地域農業振興に大きく貢献しています。



*山形県ベストアグリ賞



◎若手ねぎ研究会 (平成25年設立・会員18名) 会長 畠腹 貴宏 氏
ねぎを栽培する若手農業者が、現地研修会や先進地視察研修、会員の圃場巡回等を重ね技術力を高め、生産量・販売額の実績をあげて「もがみねぎ」産地を支えています。会員1人あたり栽培面積は最上地域平均の約1.6倍となっており、ねぎを主力品目として複合経営を確立しています。

また、関係機関と協力し、品種比較試験や新技術の実証等を行い、地域への波及に取り組む等、産地振興に貢献しています。

*最上農業賞【組織活動部門】

◎大蔵村農業後継者の会メンズ農業 会長 長瀬 剛 氏

平成23年に、大蔵村の若手農業者で結成され、現在、会員11名で活動しています。水稻に園芸作物を組み合わせた複合経営を確立し、高い栽培技術力で園芸産地のリーダーとして活躍しています。

また、地元小学校の総合的な学習や、中学校の座談会などで講師を務める他、地域イベント等への参加を通じて村の農産物のPR活動を行い、農業と食の魅力を発信し、地域活性化に大きく貢献しています。



*やまがたフラワーフェスティバル2022花き品評会

(敬称は略させていただきます)

金賞

東北農政局長賞

山形生花地方卸売市場社長賞

東日本板橋花き社長賞

りんどう

トルコぎきょう

りんどう

野尻 直光 (鮭川村)

赤間千代美 (新庄市)

熊谷 市夫 (鮭川村)

*新庄・もがみフラワーフェスティバル2022

最優秀賞 山形県知事賞

観客賞

りんどう

トルコぎきょう

野尻 直光 (鮭川村)

庄司 静男 (舟形町)

*第9回もがみさくらんぼ品評会

最優秀賞 最上地域農業・畜産振興協議会長賞

阿部 豊春 (金山町)

*第5回JA総称山形牛枝肉共進会

チャンピオン賞

ワーコム農業研究所 (真室川町)

農作業・除雪中の事故、雪害防止、電気機器の接続等点検に努めましょう!